

1 事業名

平成30年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業
「テンパークちゃれんじくらぶ」 ～ドキドキ わくわく・秋～

2 趣旨（事業の目的）

自然体験をとおして、自然を大切にする心、豊かな感性や思いやりの心を育むとともに、ボランティア高校生・大学生また参加者同士の交流をとおして、コミュニケーションの力を育む。

3 期日 平成30年9月8日（土）～9日（日）

4 参加者 80名（盛岡市・滝沢市・八幡平市・北上市の小学3～6年生）

5 後援 盛岡市教育委員会，滝沢市教育委員会，八幡平市教育委員会，雫石町教育委員会

6 内容

(1) 日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
9/8 (土)								参加者受付	はじめの会	活動1 仲良しだよ秋 (アイスブレイク)	活動2 おいしいよ秋 (野外炊事)	夕食	活動3 すてきだよ秋 (ナイトハイク)	入浴	就寝準備	就寝

	6	7	8	9	10	11	12	13	14			
9/9 (日)	起床	洗面・清掃	つどい	朝食・準備	退所点検	活動4 元気だよ秋 (運動会)		昼食	片付け	アンケート記入	おわりの会	解散

(2) 指導者

国立岩手山青少年交流の家	副主任企画指導専門職	工藤 祐 幸
	企画指導専門職	松本 博 路
	事業推進係	山崎 啓 陽
指導補助	法人ボランティア	11名

(3) 企画のポイント

参加した小学生が、安全に楽しく2日間を過ごすことができるように、体験活動支援セミナーに参加している高校生や大学生を、グループリーダーとして配置した。そして小学生が、高校生や大学生とのふれあいや体験活動をとおして、友達作りや班で協力することの大切さを学ぶことができる機会とした。

また、企画立案に際しては、法人ボランティア向けの事業「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」において、企画会議、事前準備を行い、活動全体をとおして、コミュニケーションが深まるようなプログラムを構成した。そして、それぞれの活動において、参加者同士や高校生・大学生とのコミュニケーションを図れるように配慮した。「仲良しだよ秋」では、初対面の参加者の緊張を解

きほぐすために、体を動かしながら参加者同士が関わり合うアイスブレイクを計画した。その後の「おいしいよ秋」では、野外炊事で作業を分担し、協力しながら進められるよう、パエリア（カレー、オレンジ味）作り行い、外国の食文化に触れる機会とした。夜は「すてきだよ秋」として秋の夜の虫の声や自然の音を楽しめるようナイトハイクを計画したが、天候不良により取りやめた。室内において、次の日の運動会に向けたチームの団結力を高められるよう、2班合同のチームを作り、協力して解決するゲームを楽しみながら親睦を深めさせた。また、はちまきに自分のめあてや同じチームメイト同士で励まし合うメッセージを書き込むなど工夫した。「元気だよ秋」では、色別対抗の運動会を実施し、玉入れやボール運び運動など参加者と支援ボランティアが協力して活動できるよう工夫した。

（４）広報のポイント

前年度末には、年度の事象一覧を近隣市町村全児童に配付し、年度当初から、当施設ホームページに事業日程を掲載してきた。また、盛岡市、滝沢市、八幡平市、雫石町の教育委員会教育長、盛岡市、滝沢市、八幡平市、雫石町の各小学校と報道機関へは、開催要項とチラシ、ポスターを送付した。

（５）運営のポイント

小学生7～9人の10グループに、体験活動支援セミナーの参加者を2～3名ずつグループリーダーとして位置付けて、小学生の参加者が安心して参加できるよう配慮した。そして、参加者がより楽しく活動するために、班のコミュニケーションを深めるゲームや共同作業において、グループリーダーが率先して子供たちに関わるように声かけをした。また、グループリーダーがうまく関わることができないでいる班には、企画・運営に関わる先輩法人ボランティアが間に入りコミュニケーションのきっかけをつくることを心がけさせた。

全体での共通理解を図りながら運営に関われるよう、階層型組織キャンプを構成し、本部ミーティング、スタッフミーティング、スライドショー撮影ミーティング、生活班ミーティングなど役割を明確にした組織運営体制を敷き、安全に留意したプログラム展開を実践した。（補足資料1を参照）

7 成果とその普及

テンパークちやれんじくらぶは、学校の野外活動とは違い小学3年生から参加出来るとあって、中学年に人気が高い事業となっている。

参加する子供たちの中には、親元を離れて初めての宿泊体験となる場合も多く、不安や緊張を感じていた面も見られたが、各グループのリーダーや友達と関わる中で次第に打ち解けていき、笑顔で活動を楽しむ姿が見られた。また、グループリーダーたちは、積極的に声かけをする中で、子供たちからも話しかけられるようになって、次第に自信をもって子供たちと関われるようになるなど相乗効果も見られた。参加者のアンケートからも「最初来る前はドキドキしていました。でも、その他の子ども達が話しかけてくれたのでとてもうれしくなりました。とても楽しい1泊2日を過ごせました。また、参加したいです。」「一番の思いでは、パエリアを作ったことです。訳は、最初は友達がいなくて寂しかったけど、作っている間に話していたら、だんだん仲良くなってうれしかったからです。」「元気だよ秋が一番楽しかったです。体を動かして仲間と協力して遊んだからです。リーダーと一緒に同じ班のみんなと応援して色々な競技があつてどれも楽しかったです。」「初めて会った友達とも仲良く出来たし、他の班の人とも仲良くなれた。高校、大学のお兄さん、お姉さんとも優しく楽しく活動することが出来た。楽しかった。」など、一つ一つの活動も楽しいが、他の学校からの参加者や高校生、大学生と活動したことが楽しかったという感想が多く寄せられた。活動中の様子からも、子供たちに「生きる力」として必要とされているコミュニケーション能力の向上につなげることができた。1泊2日という短い期間ではあるが、子供達が十分に満足できる活動を提供できたものとする。

8 今後の課題

初めて参加する子供だけでなく、リピーター参加者である子供たちも満足できるように、企画に携わる法人ボランティアと共に情報収集を図りながら所の特色を活かした活動内容を企画・運営していくことが大事である。そして、季節毎にちやれんじクラブを設定する際、開催時期を春と秋、夏と冬と組み合わせる等、長期的な視野で様々な体験ができるよう工夫していけるとよい。

また、高学年の児童の参加が少なくなっていることを考え、班編制でのリーダーの配置や下学年との組み合わせに配慮するとともに、自由時間での遊び計画以外にも子供自身が主体的に活動できる場の設定や補助の仕方を考えていく必要がある。



仲よしだよ秋
(アイスブレイク)



おいしいよ秋
(野外炊事)



元気だよ秋
(運動会)

補足資料1 テンパークちやれんじクラブ及び体験活動支援セミナー 組織図

